

# 琉球大学学術リポジトリ

## 琉球舞踊譜 (10) : 女踊り・四つ竹

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2014-11-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金城, 光子, Kinjo, Mitsuko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/29954">http://hdl.handle.net/20.500.12000/29954</a>

# 琉球舞踊譜(10)

～女踊り・四つ竹～

金城光子

Ryukyuan Dance Notation(10)

The Notation of Woman's Dance: YOTSUDAKE

Mitsuko KINJO

(Received October 31, 1994)

## Summary

This paper is a case of the Ryukyuan Dance notation applying to a classical dance, "YOTSUDAKE" one of the woman's seven dances. "YOTSUDAKE" is a celebratory dance performed as an introduction to dance programs. Carrying flowers, dancers wear bamboo hats and costumes with traditional Okinawan bingata designs. In each hand they hold two 15 cm strips of bamboo collectively known as YOTSUDAKE ("four bamboos"), which are beaten together in time to the music. The more dancers, the greater the splendor, which is why this extremely colorful dance is especially suited to group performances. Since the Meiji period it has been commonly assumed that this dance was intended for commercial, group performances. The lyrics say: "Striking the yotsudake, we are honored to come and dance in this performance." As observed in the previous paper, the notation has the following characteristics to present the dance from various perspectives: 1) the movements of the body clearly shown by pictures, 2) the notation of the movements and music, 3) the combination of the picture-figure notation, fugo notation, and the symbols consist of the notation of "YOTSUDAKE," 4) the explanation of the dance, 5) the songs, and 6) the way to dance.

## 1 四つ竹踊り譜について

### (1) 踊りの概要

この踊りは、四つ竹を持って踊る“女踊り”であるので、「四つ竹踊り」と呼ばれているが、「くわでーさ節」で踊る事から「踊りくわでーさ」とも呼ばれている。

踊りは、琉球古典女踊りの一つで、「かぎやで風」と同様、“めでたさ”を表現した、祝儀、祝賀の踊りである。

舞台での踊り形式は、一人踊、二人踊、三人、

四人、その他、多人数による集団舞踊としても踊られている。

古典女踊りの紅型衣装と冠りものの花笠の華やかな色彩と、四つ竹の音の響きの良さが調和して、集団舞踊としての美しさが發揮される面と、琉球舞踊の女踊りの雰囲気と特徴が表現できる踊りで、一般的に親しまれている踊りの一つである。

古典女踊りとは、宮廷舞踊の事で、かつての琉球王国時代に宮中で踊られていた舞踊を差している。その女踊りの種類は、およそ、次のような15種である。

\* Phys. Educ., Coll. of Education, University of the Ryukyus.

(1) 通常、女七踊りといわれている女踊りの典型的なものは、「伊野波節」「作田節」「かせかけ」「本貫花」「天川」「柳」「諸屯」の七種あり、その他の女踊りは、「四つ竹踊り」「稻まずん」「瓦屋節」「芋引」「本花風」「女こてい節」「本嘉手久節」「しゅんどう」の八つである。

それぞれの踊りは、歌詞・内容・持ち物が異なり、独自な雰囲気を持っているが、扮装は、琉球紅型の打ち掛け姿に髪飾りなど典型的な古典のもので統一されたものである。

“四つ竹”の踊りは「踊いくわでいーさー節」で踊るが、“くわでいーさー節”の歌詞の作者は不明とされているが、「かぎやで風」の踊りと同様、祝いの席で、めでたさを表現する踊りである。

「かぎやで風」の踊りが「男踊り」の技法の基本型として琉球舞踊の基礎としての入門の踊りであるのに対し、「四つ竹踊り」は、古典女踊りの基本型を学習する入門の踊りという事が出来る。

### (2) 踊りの歌詞

1節 打ち鳴らし鳴らし uchi narashi narashi  
(ハヤシ) サー センスル センスルセー  
sa sensuru sensuru se-

2節 四つ竹は 鳴らち yuchidakiwa narachi  
(ハヤシ) サー センスル センスルセー  
sa sensuru sensuruse-

3節 今日や 御座 御座出でて遊ぶ  
kiyu ya uza uzanjiti ashibu  
(ハヤシ) サー 遊ぶ嬉しゃ  
sa ashibu urisha

4節 今日や 御座 御座出でて 遊ぶ  
kiyu ya uza uzanjiti ashibu  
(ハヤシ) サー 遊ぶ嬉しゃ  
sa ashibu urisha

### (3) 踊りの内容

踊りの内容は、歌詞にもあるように、今日はとてもおめでたい日である。この祝いの席で四

つ竹を打ち鳴らしながらかみんなで踊り楽しむ事は、何んとすばらしい事でしょう。

### (4) 扮装

衣装は、琉球古典舞踊の「女踊り」の典型的なもので、胴衣・下袴の上に紅型打掛を着け、紫中帶にはさみこんで結ぶ着付で、赤又は白足袋を履く。

髪型は、古典女踊りの結い方で、頭上に元結いを結い、顔の左右に、もみあげを作り他の髪を後ろで結わえて背の中央に垂す。紫長布(紫サージ)を額から耳の上を通して後に結んで、髪と共に後ろに垂す。冠り物の「花笠」があるので、髪飾りはつけない。

### (5) 笠のかぶり方

「花笠」は、左右に赤い綿入れの紐が付いていて、右側の輪の先に30センチ位の長い紐が付いている。まず、両手で「花笠」を持ち、髪型の頭の元結いに花笠の中央をすっぽりかぶせるようにして笠をかぶり、右側の長い紐を左側の輪を通して右へ戻し、右耳の後ろの紐に差しこむようにして固定する。「笠」の顔前の縁がほぼ眉の高さになるように基準を決め、ややほぶかにかぶる形にする。

### (6) 小道具

冠り物の「花笠」は、地の古典舞踊、「伊野波節」や「本嘉手久節」にも用いられる小道具の一つである。また、創作舞踊などにも用いられている。

例えば、男女打組で踊る創作舞踊「仲里節」で女性が「花笠」を持って踊る。その他の創作舞踊にも使用されている。

持ち物の「四つ竹」は、竹を10センチ位の長さに四つ割りにし、4センチ位の幅に切り、表は黒色、裏は赤色に塗ったものに、紅白または、赤色の房を着けたものである。

その他、「四つ竹」は、民踊おどりなどにも用いられているが、その場合の「四つ竹」は、表は地色にニス塗りで、裏は赤色に塗ったものに紅白の房を着けたものを用いている。

古典舞踊も民踊も「四つ竹」の長さや幅など

の大きさは同じで、二枚ずつ両手に持ち、打ち鳴らしながら踊る。

先述のように、「四つ竹」は、「エイサー踊り」「白太鼓」などの民俗芸能にも使用されており、また、雑踊り（近代舞踊）の「貫花踊り」の後半の「南だき節」も「四つ竹」を打ち鳴らしながら踊る。

#### (7) 小道具の持ち方・扱い方

「四つ竹」の持ち方は、二枚の竹の表を重ね合わせて、手の平の指のつけ根に四つ竹の縁を揃えて置き、内側の竹を親指の第一関節で押さえ、外側の竹を他の四本の指の第一関節でおさえ、二枚を開閉させて打つ。

※ 民踊や民俗芸能などに使用する「四つ竹」には、竹片の中央に穴を開け、ゴム紐を通した物があり、ゴム紐に中指と親指を通して打っている場合もあるが、本来の扱い方は、ゴム紐を使用しないで持って打つ事が望ましい。

「花笠」については、5のかぶり方を参照のこと。

## 2 踊りの技法・おもな動作

この項では、「四つ竹踊り」の主な動作・技法の解説はいわゆる、これまで記述した舞踊譜の「女踊り」の技法の典型的な方法と共通的な手法であるが、小道具（四つ竹）を両手に持った振りである点で特有なニュアンスをかもしだしている。

### ① 立ち方：「女立ち」・「基本立ち」

立ち方は、「男立ち」に対して「女立ち」または、「基本立ち」という、基本の立ち方・構えである。

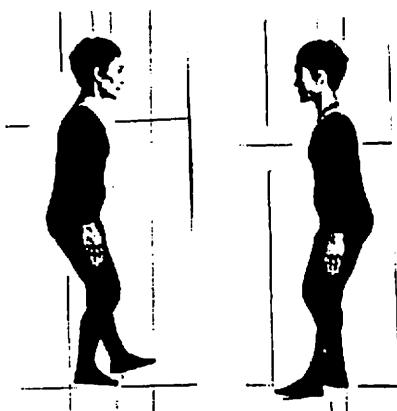
両手を左右の体側に力をぬいて、真直に下ろし、右足をやや曲げて、左足を左斜前に、かかとをつけて出し、爪先をやや上げて立つ。この時、両肘は体側につけ、背筋を伸ばし、右足に重心をかけ、体の軸を真直にし、みぞおちをやや、たたみこむようにする。

立った姿勢は、お尻が後ろに出ない事。目線はやや落とした感じで前方を見る。

### ② 立ち方・女立ち



女立ち・基本立ち(前面・後面)



女立ち・基本立ち(側面)

「出羽」の立ち方：右足を左足前に爪先を正面に向けて出し、左足を右足に沿いながら左前に出して、面を右に入れ、左足に重心を移しながら右足を左足に沿って右斜前に出し、右足に重心を移し膝を曲げて面を左に入れ、上体を正面に向けるながら、左足を左斜前に摺り出し、かかとをつけ、爪先をやや上げて立つ。上体は、円を描くようにカーブをつけてなだらかに、面と共に移動させる。

その他、踊りの中での「女立ち」も同様な方法で行なうが、この場合は、右足を右斜前に出して、重心をかけながら右膝を曲げて面を左に入れ（右向き）、上体と面を正面に向けるながら、左足を左斜前に摺り出し、かかとをつけ爪先あげで「女立ち」になる。

※ 左足のかかとは、右足の指のつけ根の延長線上か、または、右足の三分の一上の部分に出す

ようにし、お尻が右側にずれないように、身体の軸が真直になるようにする事。

### ③ 歩き方・歩み

歩き方は、男踊りと同様、足裏で床を摺って歩く「摺り足歩行」であるが、基本的な姿勢に男女差があるように、歩行も、男性が両手を前方に出して構えて歩くのに対し、女性は、基本姿勢「女立ち」でも分るように、両手を体側につけて下ろした形で歩を運ぶ歩き方である。したがって、女体をやや前に倒した形になり、目線を少し落して歩き、歩幅も一足長で両膝を接触させて、やや曲げた状態で歩を運ぶ。

### ④ 始動構え・始動

左斜めに出した左足を少し引いて、爪先を内側（右足側）に向けて両膝を曲げて面を右に入れる（始動構え）。次いで、右足を右後ろに出し、両膝を曲げて膝と爪先を内側に向き合わす（逆ハの字）面を左に入れ、右手上左手体前に上げながら上体を正面に向け、重心を右足に移し、面を右に入れる（首を右に曲げる）。

この方法は、「かぎやで風」の時の男踊りの技法の逆動作であるか、女踊りは、体の向きと面の向きを一致させながら、常になだらかな曲線を描くようにする事と、男踊りの足の出し方と異なる「逆ハの字」によって、円い曲線的な動きをする事が特徴である。

### ⑤ 突き方

突く動作は、男踊りと同様な方法で行なう。但し、突く動作は、面と上体の向きと一致させる事と突いた後に「上体を正常位に戻す」動作が加わる。

突き方は、左足を出して膝を曲げ重心を移して、右足を摺り出し、右足に重心を移しながら左足を右足後ろに引き寄せ（そえる）る。

### ⑥ 切り返し構え・切り返し

両膝を曲げ、左足を左斜前に出しながら両手をあげ、左足に重心を移しながら左手前右手右横に伸ばし（切り返し構え）、右足先を右に向けて出しながら右手体前左手左横に伸ばし、右まわりす

る（切り返し）。

### ⑦ 右まわり・女立ち

右手前左手横に上げた状態で、右足先を右に向けて出し、左足を右足に沿いながら右横に出すと同時に体を右にまわし、両手を上に上げて面を右に入れ、左手前右手右横に下ろしながら、右足を前に出して重心をかけ、両手を上げながら、左足を左斜め前に出し、両手を体側に下ろして「女立ち」になる。

### ⑧ 両手の引き・押し動作

両手の平を上に向けて、体前に引き、手の平を伏せて前方に押す（突く形）。

### ⑨ 右手かざし・立位ポーズ

両手を下から右手上、左手体前に回して上げる。この時右足に左足を交差する。

### ⑩ 左手かざし・座位ポーズ

右手かざし・立位ポーズの反対動作を行ない座ってポーズ。

両者共、上がっている手の方に面を入れる。

### ⑪ 両膝立て・かみ手

床上に、両膝立てになり、両手を右上に上げ、左の方えまわしながら、手首をこね回し両手を上に上げて止める。（物を頭にのせる事を、沖縄方言で、カミーンというところから、「かみ手・Kamidi」と呼ぶ）。

「かみ手」は、「四つ竹踊り」では、2節の両膝立てで行なう場合と、4節の始めの立ったまま動作する、二か所で行なう。

### ⑫ まわり方

まわり方（小まわり）は、左右共男踊りの形と同様だが、「女踊り」の場合は、男の膝割り動作・八文字形の膝と爪先の向きを逆にし、女は、内股状態で、逆ハの字になり、いわゆる、円形状態で、曲線を描きながら動作する所に特徴がある。

### ⑬ 抱き手

左抱き手・右抱き手共に子供を抱いた状態の形

をつくる。

左抱き手の方法は、左手を体前内側に巻きこみ、次いで、右手で左手を包みこむようにして巻きこみながら、左手の平を上にして左前に出し、両手で子供を抱いている様な形で、面を右に入れて左を見る。

右抱き手は、左の反対動作を行なう。

#### ⑭ 抱き手・半身（入身）・斜め前突き足

抱き手のまま、左斜前に前進、左足突き動作を行なう場合、上体を正面に向けた形で、面を右に入れて左を見たまま、半身で動作する。右側もその反対動作を行なう。

#### ⑮ 足交差・両手交互上げ

左足または右足を交差したまま、両手を右・左・右・左と交互に上げ下げをする。  
たぐ寄せる様な、または、引き寄せるような動作をし、面は、右手上の時は左に入れて左手上の時は、面を右に入れて左を見るという様に、手と面と上体の向きを一致させ、やわらかさを出すようする事がこつ。

#### ⑯ 角切り（すみきり）

4節の前半の踊りの「切り返し・右まわり」の場合、後ろ向きにならずに、右斜後ろ向きになり、上手の方向に四歩進み、四歩目の左足を、舞台の下手から上手を結ぶ対角線上に出し、右足を右横に出して左まわりをして下手向きになる。このように、「中踊り」から「入羽」に移行する際に、

舞台中央から上手に向きを変え、さらに、下手に向きを変える事を「角（すみ）を切る」即ち、「shimi chiri」という。

#### ⑰ 出羽

「四つ竹踊り」の出羽は、「かぎやで風」と同様に、下手から上手に向かって、真直舞台中央まで出て、女立ちになる。

#### ⑲ 立ち羽

男踊りの場合の「男立ち」になる構え。また、女踊りの場合の「女立ち」になる構え・動作の事を“立ち羽”とも呼んでいる。

#### ⑳ 入羽

「四つ竹踊り」の入羽・退場の方法は、下手奥に向いてゆっくり退場する仕方である。

#### ㉑ 「四つ竹」の打ち鳴らし方

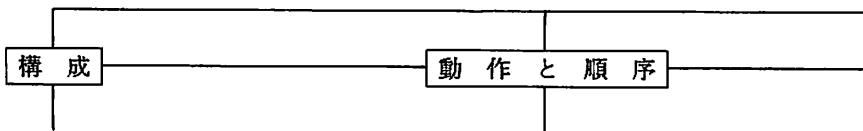
「四つ竹」は、歩行と一致させて、2拍に1回ずつ打つ方法で、最初から終りまで同じ調子で打ちつづけて踊る。

### 3 「四つ竹の組み立てと踊り方」

踊りの構成（組み立）は、「かぎやで風」と同様、「出羽」「中踊り」「入羽」の形式であり、歌詞にも示したように、四節でまとめられ、踊りの長さは、約7分である。

踊りの構成と動作は、次のように示される。

## 「四つ竹踊り」の組み立てと踊り方



出 羽 .....「下手」から舞台中央へ真直向いて歩く。中央で右まわりをして「女立ち」

— 1 節 .....始動構え・始動で、右手上、左手体前に上げ、左足から四歩前進右足突き、上体を正常位に直す。

両手下ろし両膝を曲げ、左足斜め前出と両手上げ「切り返し構え」「切り返し」で右まわり、後ろ向き右足から四歩前進。右まわり正面に向き、「女立ち」。

中 — 2 節 .....右足を右斜めに引き、両手の、引き・押す動作で両手を体前に上げ、左足から四歩前進、右足突き、上体を正常位に戻す。

右足右へ・両手右に下ろし、左足交差・両手右上かざし（ポーズ）。右まわり右足交差・両手左上かざし（ポーズ）のまま、右膝立て座り（ポーズ）。両膝立てと「両手こねまわし・かみ手」左足で立ち、二歩前進、左まわり後向き、左足から四歩前進する。

踊 — 3 節 .....両手を上げたまま左まわり 右抱き手左斜前・前進・左足突き、左抱き手右斜前に前進・右足突き。

右足・右斜後ろ出し・左手右下（始動）・右出上・左手前上げ（右上かざし構え）、左右二歩前進・左まわり・後ろ向き、左足から七歩前進・右足交差・右手左手下で正面向き・両手の交互上げ四回目の右手下ろしと両膝曲げ・右手上右足後ろ出で、左まわり・左手右・左足交差、両手の交互上げ四回、右手下ろしと右まわり・左抱き手・後ろ向き・右左二歩前進、右手前・左手横で右まわり・女立ち。

り — 4 節 .....始動構え・両手右上あげ・かみ手で両手上げ、左足から四歩前進・右足突き・上体正常位直し、切り返し構え・切り返し・右まわりで右斜後ろ向き（舞台上手奥向き）・右足から四歩前進・左まわり（角切り）で下手奥向き（舞台の上手・下手を結ぶ対角線上に立つ）・左足から四歩前進・左足交差と両手の交互上げ四回・右まわり・右足交差と両手の交互上げ四回（上手を振り返る形になる）、両手下ろし・両膝曲げ・右足出と両手上げ、両手左下おろし・両膝曲げ・左足出と両手上げ、両手下ろし・膝曲げ。

入 羽 .....右足から下手奥に向かって退場する。

#### 4 "YOTSUDAKE"

##### OUTLINE OF "YOTSUDAKE"

"YOTSUDAKE" is a celebratory dance performed as an introduction to dance programs. Carrying flowers, dancers wear bamboo hats and costumes with traditional Okinawan bingata designs. In each hand they hold two 15 cm strips of bamboo collectively known as YOTSUDAKE ("four bamboos"), which are beaten together in time to the music. the more dancers, the greater the splendor, which is why this extremely colorful dance is especially suited to group performances. since the Meiji period it has been commonly assumed that this dance was intended for commercial, group performances. the lyrics say:"Striking the yotsudake, we are honored to come and dance in this performance.

##### LYRICS OF "YOTSUDAKE:UDUI "KUWADIISA BUSHI"

- |                                 |                       |
|---------------------------------|-----------------------|
| (1) Uchi narashi narashi        | sa sensuru sensuru se |
| (2) Yuchidakiwa narashi         | sa sensuru sensuru se |
| (3) Kiyu ya uza uzanjiti ashibu | sa ashibu urisha      |
| (4) Kiyu ya uza uzanjiti ashibu | sa ashibu urisha      |

##### CHOREOGRAPHY OF "YOTSUDAKE"

"Njifa" (Entrance) – 1) walk towards the center with the hands on the sides while clapping the bamboo slabs (Fig.1-8), 2) right face then do the female standing form with the left foot slightly stretched to the side (Fig.9-16).

((1)) – 1) do the vertical hand coil while moving the left foot inwards (Fig.17-18), 2) stretch legs still doing the hand coil, slightly bend the knees and face left while raising the right hand up and the left in-front of the body, walk 4 steps starting with the left foot, bend the head towards the left then do the right leg thrust and straighten. the body afterwards (Fig.19-33), 3) lower both hands to the side, bring the hands in front of the left side of the body while stretching the left leg to the side then do the "kirikaeshi" to the left (Fig.34-39), 4) maintaining the hand forms small turn to the right ending facing back (Fig.40-43), 5) walk 4 steps starting with the right (Fig.44-47), 6) then do the small turn to the right while raising the hands at head level (Fig.48-52), 7) lower the hands to the right side while crossing the feet ending with the female standing form (Fig.53-58)

((2)) – 1) slightly face right (Fig.59-60), 2) stretch hands, bring close to chest then straighten it up again while facing left and slightly bending the knees (Fig.61-65), 3) walk 4 steps starting with the left and do the right foot thrust while maintaining the hand posture (Fig.66-74), 4) bring the hands to the right side while crossing the left foot over the right and the raising the right hand up and the left in-front of the body (Fig.75-79), 5) turn towards the right then crossing the right foot over the left while rais-

ing the left hand and and the right infront of the body, then maintaining hand posture kneel down (Fig.80-91), 6) while kneeling with both knees move the hands in a counter-clockwise direction ending up (Fig.92-97), 7) stand up maintaining hand positions (Fig.98-99), 8) maintaining hand position small turn to the left ending facing back (Fig.100-103), 9) walk 4 steps starting with the left foot (Fig.104-107).

((3)) – 1) maintaining hand positions turn towards the left (Fig.108-110), 2) slowly face towards the left while doing the vertical hand coils, while doing the left leg thrust maintain the left hand over the right the close feet together, then do the same sequnce on the other side (Fig.111-129), 3) vertical hand coils while body slightly diagonal to the right and then face left with right hand up over the left which is infront of the body (Fig.130-133), 4) walk 2 steps starting with the left (Fig.134-135), 5) maintaining hand positions small turn to the left ending facing back (Fig.136-140), 6) walk 7 steps starting with the left foot (Fig.141-147), 7) step right outwards and maintaining a crossed position position, do the vertical hand coil (Fig.148-149), 8) right foot over left while doing the vertical hand coil (Fig.150-154), 9) move towards the other side by moving the body towards the left and do the left foot over right cross (Fig.155-159), 10) maintain a crossed feet position while doing the vertical hand coils (Fig.160-165), 11) position the left hand nearer the chest than the right while turning towards the back (Fig.166-169), 12) walk 2 steps starting with the right (Fig.170-171), 13) small turn to the right while moving the hands form the left side, up then down to the right side (Fig.172-178), 14) cross right foot over left, move hands up then going down while doing the while female standing from (Fig.179-183).

((4)) – 1) move left foot inwards (Fig.184), 2) move the hands from the right side going up ending there (Fig.185-190), 3) maintaining hand position up walk 7 steps then do the right foot thrust (Fig.191-201), 4) lower the hands to the side while slightly bending both knees (Fig.202-204), 5) hands to the left side, then to the right then back to the left while crossing the right over the left (Fig.206-208), 6) maintaining the hands on the left side small turn to the right ending facing back (Fig.209-213), 7) walk diagonally to the right 4 steps starting with the right foot (Fig.214-217), 8) face diagonally to the left (Fig.218-221), 9) walk 4 steps to the left starting with the left foot (Fig.222-225), 10) maintain a left foot over right position while doing the vertical hand coil while bodyt wisted to the left (Fig.226-228), 11) tilt a little still doing the hand coil and the slightly bend the knees (Fig.229-232), 12) move body towards the right side still doing the hand coil (Fig.233-237), 13) main-tain a right foot over left position still doing the hand coil (Fig.238-243), 14) slightly bend the knees while bring the hands to the right side (Fig.244-245), 15) both feet pointing inwards while the hands move from right side to head level (Fig.246-249), 16) continue moving the hands up to the left side (Fig.250-251), 17) move it up to head level again while moving the feet apart (Fig.252-254), 18) low-er the hands to the side the slightly bend the knees (Fig.255-256).

"Irifa" (Exit)-walk using the slide walk towards the exit with the hands to the side (Fig.251-266).

金城：琉球舞踊譜（10）

5 四つ竹譜～① 譜語と記号による絵図譜



(写真番号はレオタード写真絵図譜)

**(1節)**

1 (写真7) す歩 (前奏) 下手から舞台中央へ (出羽) (踊りくわでいさ節)

2 (写真16) 正面向 入 女立

3 (写真17) 女を始動 (1節)

4 (写真26) す歩4 前進

5 (写真31) 6 (写真36～38) 7 (写真42) 8 (写真48～52)

9 (写真54～58) 10 (写真59) 11 (写真61) 12 (写真64)

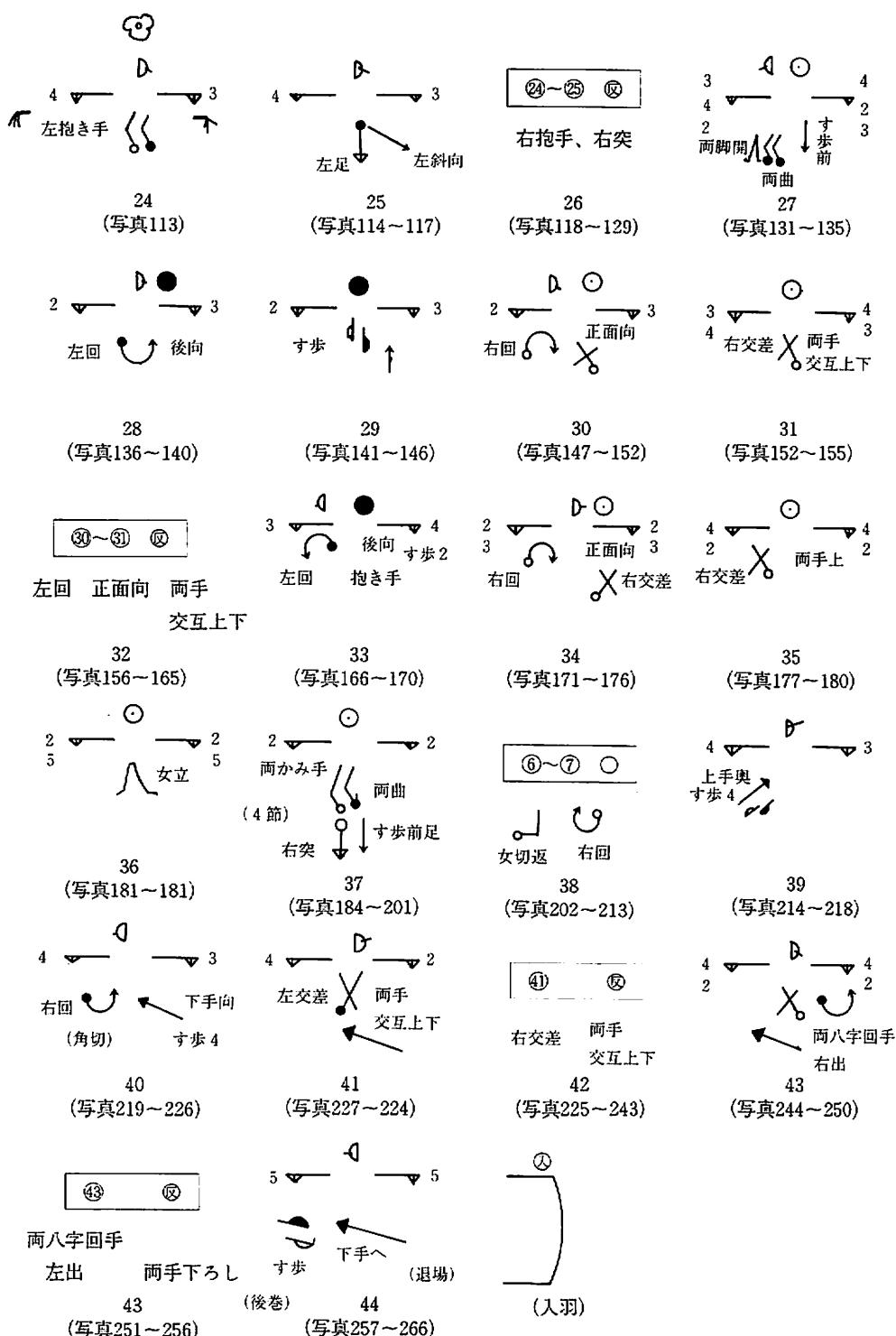
13 (写真70) 14 (写真73) 15 (写真77) 15 (写真79)

16 (写真81～83) 17 (写真88) 18 (写真91) 19 (写真93～97)

20 (写真99) 21 (写真100～104) 22 (写真105～107) 23 (写真108～112)

17 (間差) (3節)

#### 四つ竹譜～② 譜題と記号による翻訳



6 「四つ竹」 踊りのかたち



(1) 女立ち(右横向)



(2) 女立ち(左横向)



(3) 女立ち(後向)



(4) 抱き手(右手抱き)



(5) 座位両手開きあげ



(6) 始動構え



(7) 立位両手開きあげ



(8) 女立ち



(9) 座位両手開き：左膝立て



(10) 右手あげ右足突



(11) 揉り足歩行(出・入羽)

## 7 「四つ竹」踊りの舞台上の移動軌跡

図1. のように「四つ竹」踊りの舞台上の踊り軌跡概略図（移動軌跡）を示した。

- ① 出羽：登場は、下手奥から舞台中央へ直線（上手向）移動で摺り足で出る。
- ② 舞台中央で正面向きで女立ち。
- ③ 舞台中央部を往復して踊る。前進～右回り～後向前進～右回～女立ちの順で踊る。
- ④ 入羽：退場は4番目の踊りで、右回～上手奥へ前進、左向（角切）で下手奥へ向き、上手と下手を結ぶ対角線上で踊り（入羽踊り）退場する。

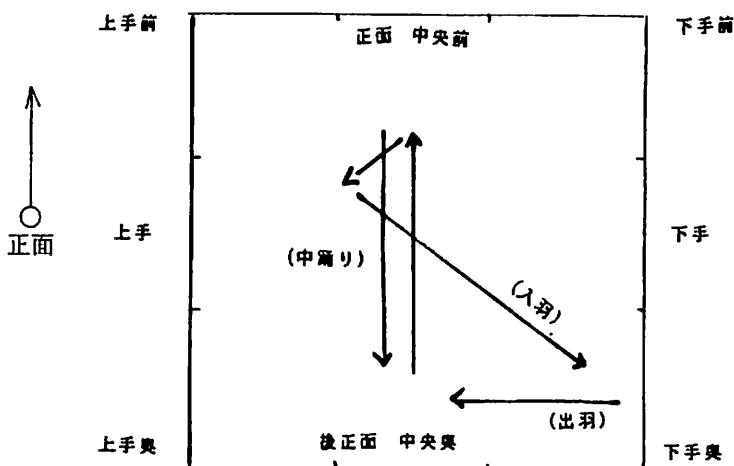
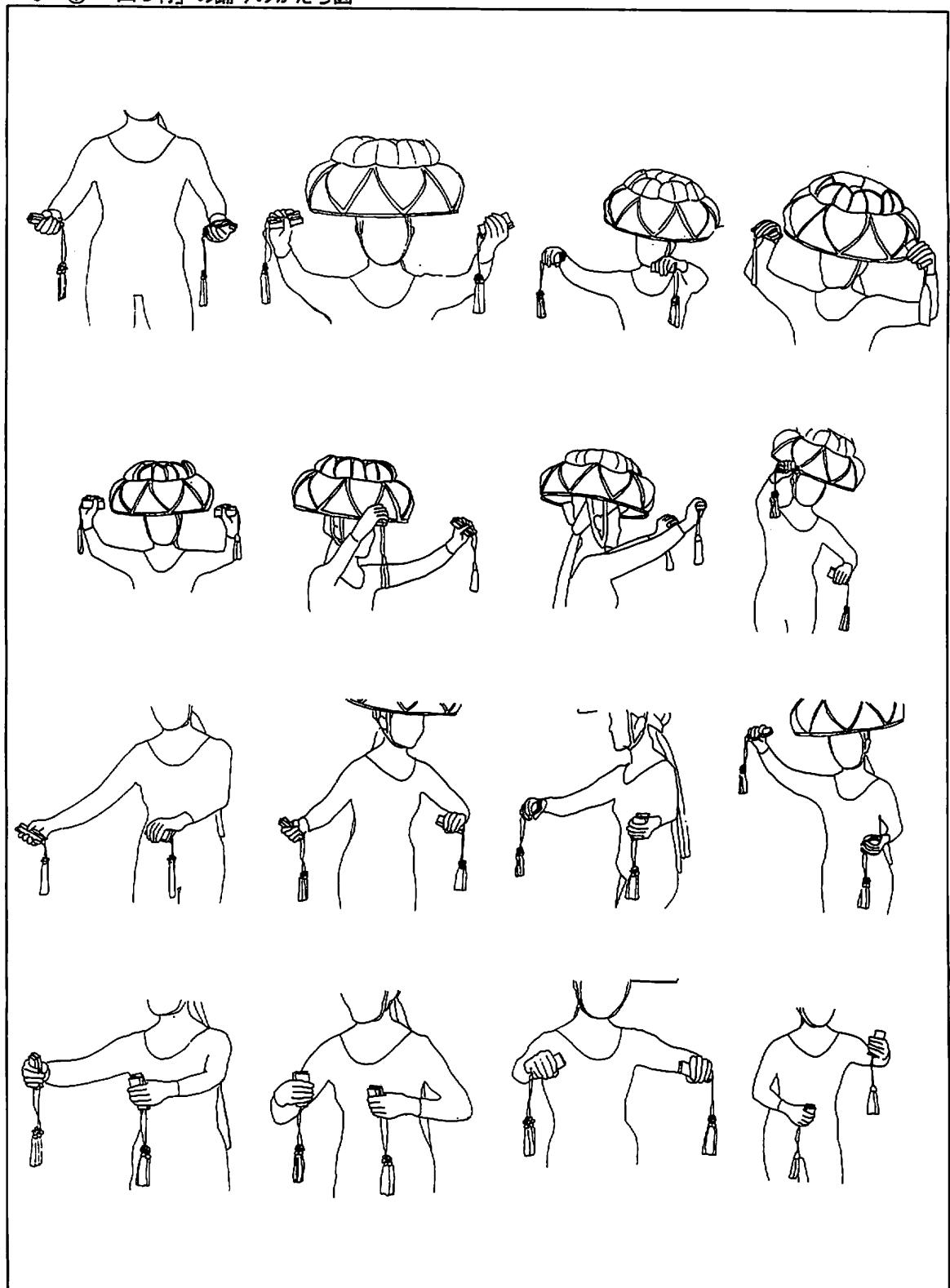
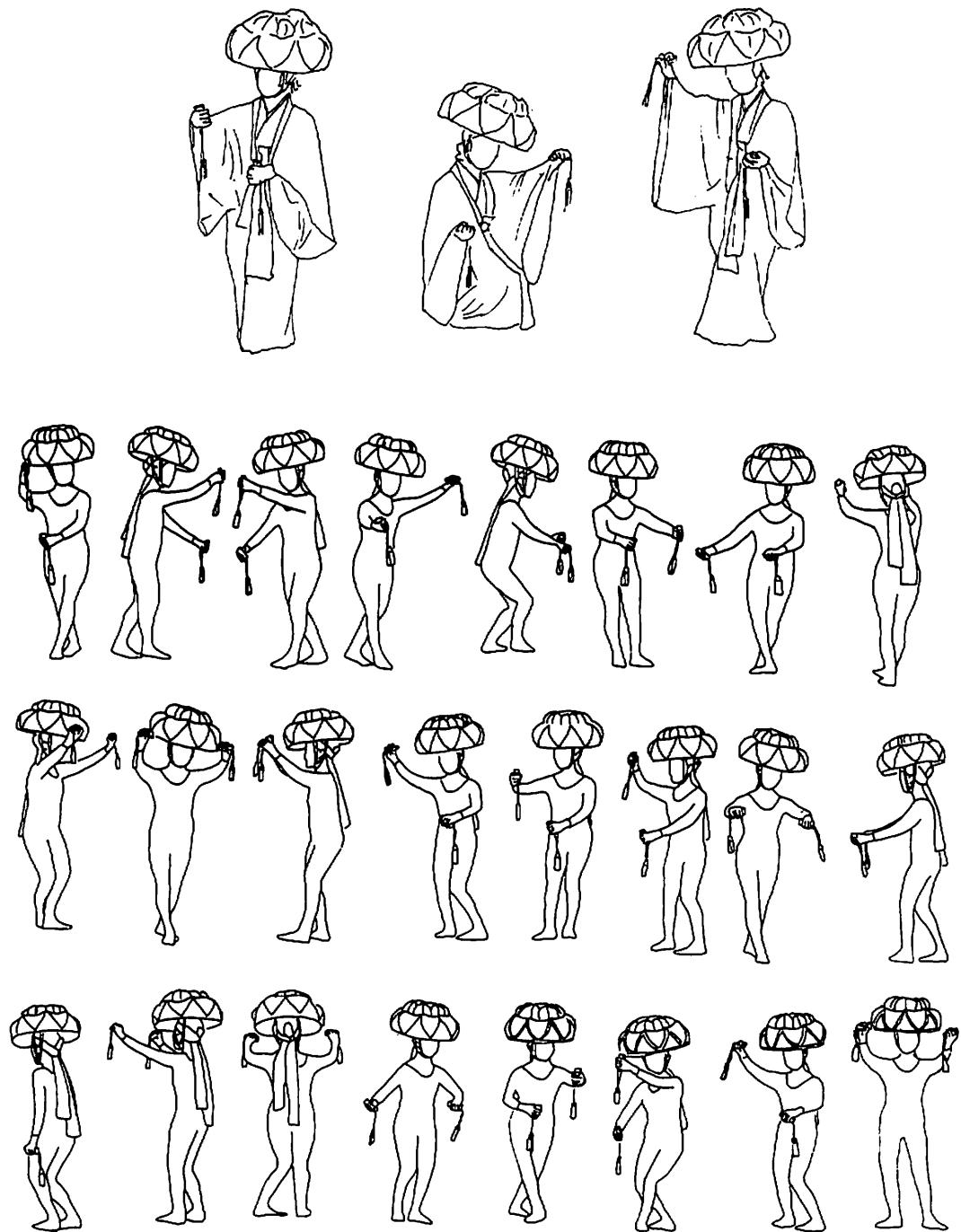


図1. 「四つ竹」の舞台上の踊り軌跡概略図

8～① 「四つ竹」の踊りのかたち図



8～② 「四つ竹」の踊りのかたち図



9 「四つ竹」 舞踊の装束・扮装



(1)

(2)

(3)

(4)

(5)



(6)



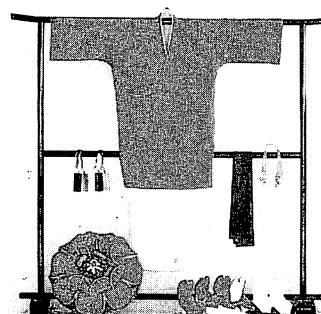
(7)



(8)



(9)



胴衣（赤）

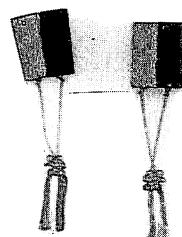
かかん  
(白ヒダ巻スカート)

四つ竹

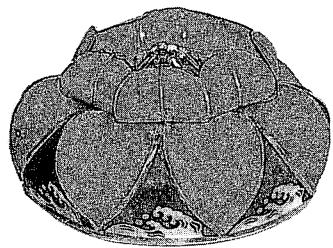
ヌシ

ムラサキ  
長サージ

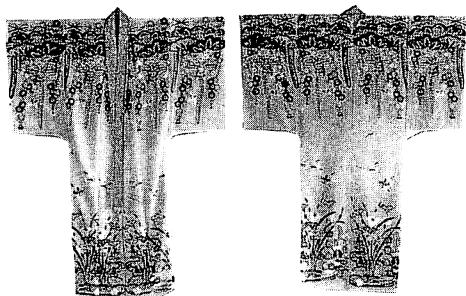
花笠 赤い白裏足袋、白足袋



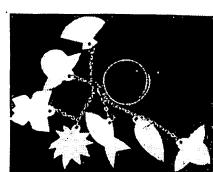
四つ竹



花笠



黄地紅型



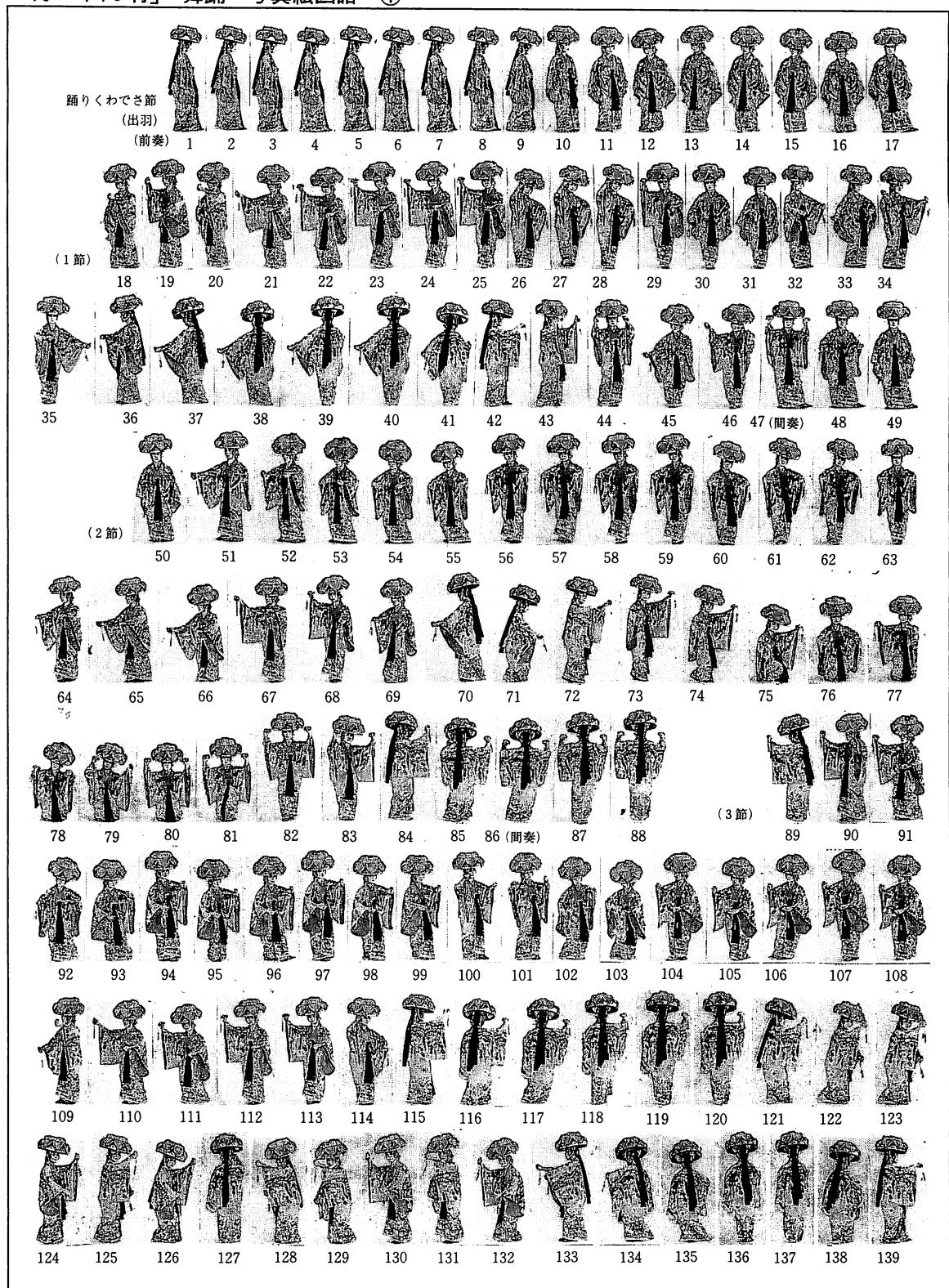
房ゆびわ

ふさいービナギー

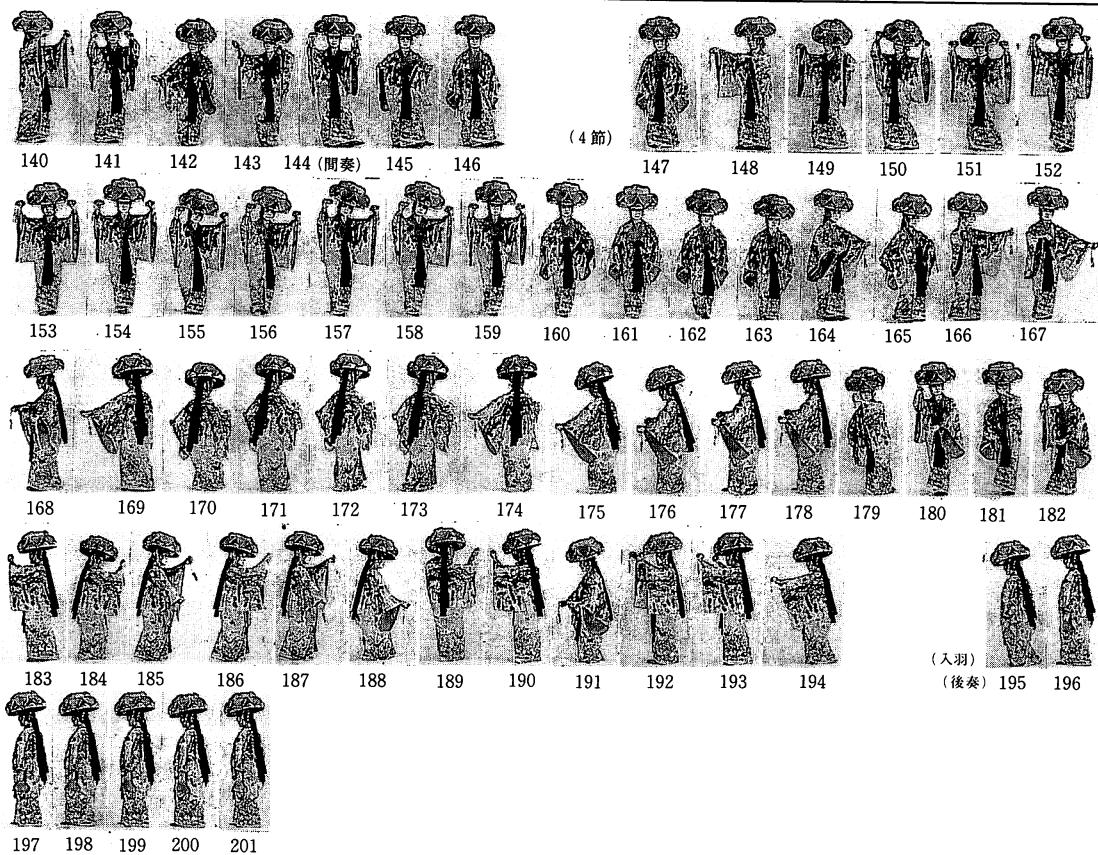


ヌシ(髪かざり)

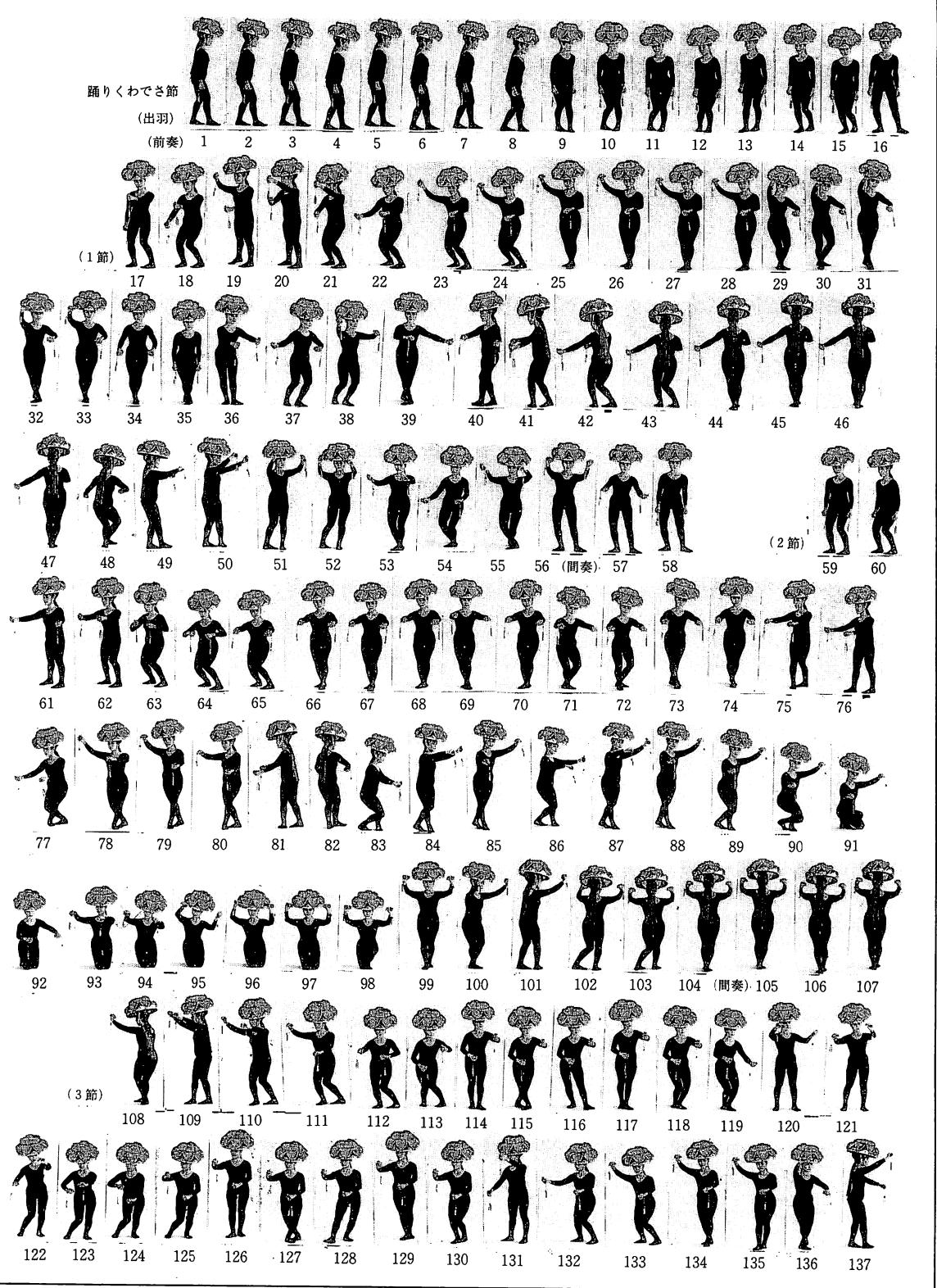
10 「四つ竹」 舞踊 写真絵図譜～①



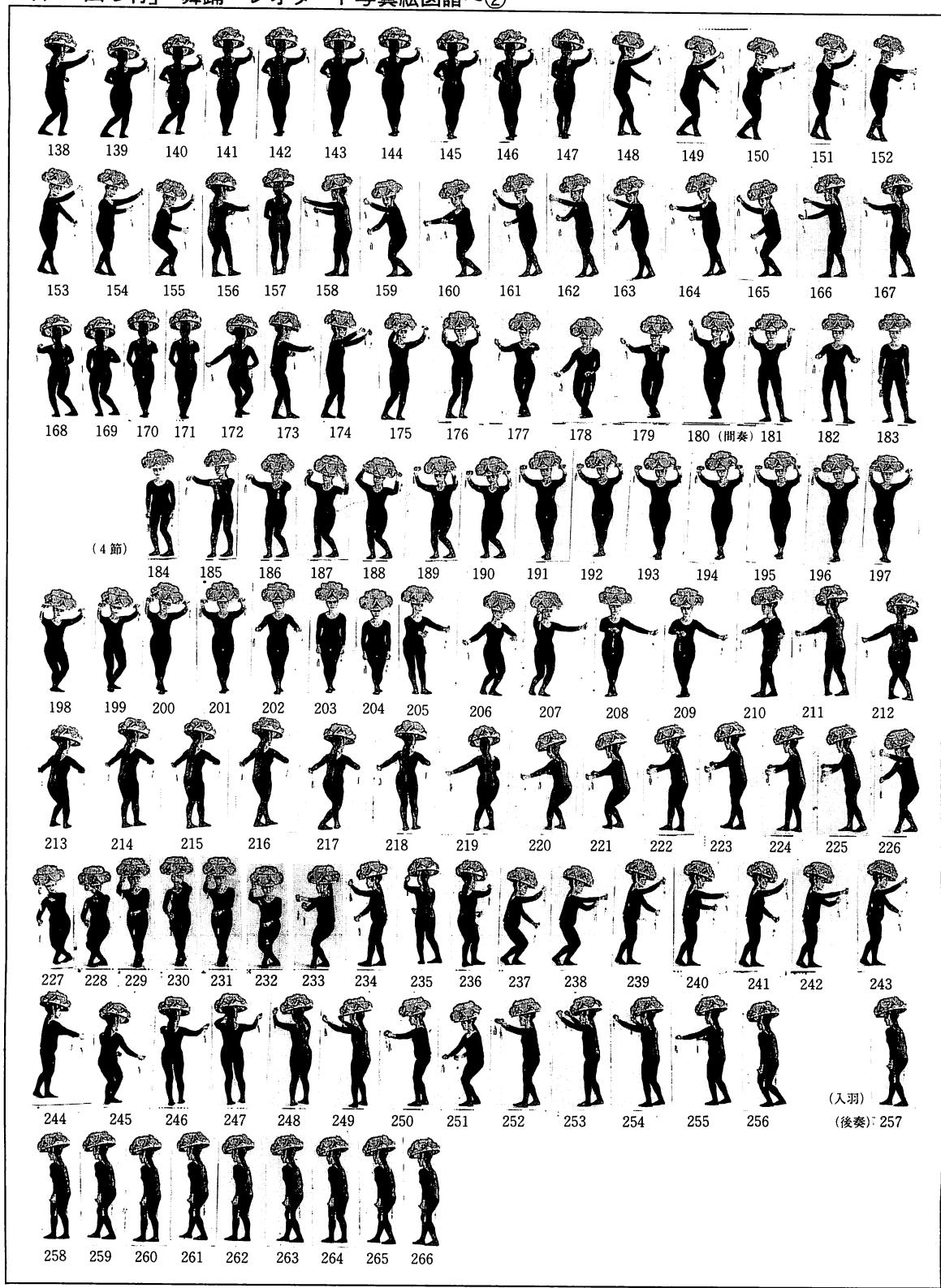
## 10 「四つ竹」 舞踊 写真絵図譜～②



11 「四つ竹」 舞踊 レオタード写真絵図譜～①



11 「四つ竹」 舞踊 レオタード写真絵図譜～②



12

四つ竹

(本調子) (野村流古典音楽保存会野村流工工四) より

うちならしならし四つ竹はならち

今日や御座出であそぶれしや

四〇叶	四ス四	中	中	工	四〇叶	中
○叶	叶ル	○	○	○	○チ	中
走	合	中	中	工	走	工
走	○合	走	中	六	走	六
四	合ス合	四	四	工	四	工
中	四〇叶	○シ四	〇叶ス	○	中	中
工	四四四	工	工	工	工	四
尺	○セ四	走	走	中	又	走
工	四	四	工	又	工	四
○キ	工	○サ	○テス	○シ中	○テ	工
工	走	上	工	又	工	走
又	走	○セ上	尺	工	尺	走

工	工	四	四ス四	中	中	工
尺	中	六*	老ル老 尺口	○	○	○
工	尺	七	合	中	中	工
○ウス (工)	○エ中	六	○合 ン合	老	中	六
工	尺	工	合ス合	四	工	工
尺	工	中	老ル老	○チ四	○オ尺 (尺)	○
中	中	六	四四	四	工	工
○	○	○叶六	○セ四	老	老	中
中	中	七	四	四	工	尺
老	中	六	工	○サ四	○テス	○ア中
四	工	工	老	上	工	尺
○サ四	○オ尺 (尺)	○工	老	○セ上 ン上	尺	工

四	四	四	工	中	工	四
老	工	○ア <sup>上</sup>	○ア <sup>工</sup>	○	○	工
四	老	上	工	中	工	老
工	老	○ア <sup>上</sup>	尺	中	六	老 <sup>ア老</sup>
老	四	四 <sup>*</sup>	中	工	工	四
老	老	ア <sup>老</sup>	○	○ <sup>ア<sup>尺</sup></sup>	○	中 <sup>ア</sup>
四	中 <sup>合</sup>	合	中	工	工	工
	中 <sup>合</sup>	○	老	尺	中	尺
	合 <sup>リ</sup>	四	四	工	尺	工
	六	老	○ア <sup>四</sup>	○ア <sup>尺</sup>	○ <sup>ア<sup>尺</sup></sup>	○ <sup>ア<sup>尺</sup></sup>
	工	四	四	工	尺	工
	中 <sup>尺</sup>	○ <sup>シ<sup>四</sup></sup>	老	尺	工	尺

## 文 献

- 1) 沖縄美術全集刊行委員会 沖縄タイムス社  
(1989)
- 2) 琉球びんがた歴史と技法 琉球びんがた事業  
共同組合 山陽印刷 1987
- 3) 芸術祭運営委員会 芸術祭総覧 沖縄タイム  
ス社 1963
- 4) 琉球古典舞踊の型 芸術祭運営委員会 沖縄  
タイムス社 1976
- 5) 中山盛茂編集 琉球史辞典 琉球文教図書株  
式会社 1969
- 6) 沖縄県工芸振興センター 沖縄の伝統工芸新  
報出版印刷 1979
- 7) 真栄田義見 三隅治雄 源武雄 沖縄文化史  
辞典 東京堂出版 1972
- 8) 宜保栄治郎 琉球舞踊入門 那覇出版社  
1979
- 9) 沖縄伝統芸能の会 琉球舞踊—鑑賞の手引—  
沖縄県商工労働部観光・文化局文化振興課  
1985
- 10) 陳武雄 台湾民族文物図録 中華民国 70年  
6月 台中市立文化中心収蔵
- 11) 山内盛彬 民族芸能全集Ⅲ 琉球の舞踊と謡  
身舞踊 民族芸能全集刊行会 1963
- 12) 三隅治雄 沖縄の芸能 邦楽と舞踊刊 1969
- 13) 与那覇政牛 ふるさとの歌 南西印刷 1962
- 14) 金城光子 沖縄の民族舞踊に関する研究—運  
動表現特質について—第24回九州体育会抄録  
1974
- 15) 金城光子 沖縄の踊りの表現特質に関する研  
究—古典女踊りについて— 第26回日本体育  
学会抄録 P194 1975
- 16) 石野径一郎 琉歌つれづれ 株式会社東邦書  
房 (1973)
- 17) 金城光子 沖縄の民族舞踊に関する研究  
—運動表現特質について— 第26回日本体育  
学会抄録 P194 1975
- 18) 金城光子 沖縄の踊りの表現特質に関する  
研究(1) —古典舞踊「かぎやで風」について  
琉球大学教育学部紀要 第19集第2部  
pp51~67 1975
- 19) 金城光子 沖縄の踊り(1) —古典舞踊「かぎ  
やで風」 —舞踊譜体系化をめざして— 琉  
球大学教育学部紀要 第19集第2部 pp88  
~72 1975
- 20) 金城光子 沖縄の踊りの表現特質に関する研  
究(2) —古典舞踊「諸屯」について— 琉球  
大学教育学部紀要 第20集第2部 pp117  
~162 1976
- 21) 金城光子 沖縄の踊り(2) —古典舞踊「諸屯」  
—舞踊譜の体系化をめざして— 琉球大学教  
育学部紀要 第20集第2部 pp第2部  
pp163 ~209 1976
- 22) 金城光子 沖縄の踊りの表現特質に関する研  
究(3) —男踊りについて— 第29回日本体育  
学会大会号 p182 1977
- 23) 金城光子 沖縄の踊りの表現特質に関する研  
究(3) —古典舞踊「高平良万歳」について—  
琉球大学教育学部紀要 第21集第2部 pp33  
~96 1977
- 24) 金城光子 沖縄の踊り(3) —古典舞踊「高平  
良万歳」 —舞踊譜の体系化をめざして—  
琉球大学教育学部紀要 第21集第2部  
pp97~158 1977
- 25) 金城光子 沖縄の踊りの表現特質に関する研  
究(4) —古典・女踊り「伊野波節」について  
— 琉球大学教育学部紀要 第27集第2部  
pp213 ~245 1984
- 26) 金城光子 沖縄の踊り(4) —古典舞踊・女踊  
り「伊野波節」 —舞踊譜の体系化をめざし  
て— 琉球大学教育学部紀要 第26集第2部  
pp73~124 1983
- 27) 金城光子・花城洋子 舞踊動作の表現リズム  
に関する研究 —琉球舞踊とインド舞踊のE  
MGパターンについて— 琉球大学教育学部  
紀要 第23集第2部 pp61~83 1979
- 28) 金城光子・花城洋子 舞踊動作の表現リズム  
に関する研究 [II] —琉球舞踊・日本舞踊・  
インド舞踊の筋放電及び呼吸パターンについ  
て— 琉球大学教育学部紀要 第24集第2部  
pp50~60 1980
- 29) 金城光子・花城洋子 アジアの民族舞踊に  
関する比較舞踊学的研究 —舞踊動作の表現リ  
ズム [III] —琉球舞踊・日本舞踊・インド  
舞踊の筋放電及び呼吸パターンについて—

- 琉球大学教育学部紀要 第25集第2部  
pp49~91 1981
- 30) 金城光子 沖縄の踊りの形式について 第25回九州体育学会抄録 p58 1975
- 31) 金城光子 沖縄の踊りの表現特質に関する研究 ～古典女踊りについて～ 第26回日本体育学会抄録 p194 1975
- 32) 東京国立文化財研究編 改訂標準日本舞踊譜 創思社 1960
- 33) 金城光子・大城宣武 東南アジア民族舞踊の印象空間；I 琉球大学教育学部紀要 第28集第2部 pp67~88 1985
- 34) 金城光子 琉球舞踊の要素評定による認知体系 日本体育学会第30回大会号 p175 1979
- 35) 舞踊の鑑賞構造に関する研究 [V] ～舞踊の要素評定による認知体系 琉球大学教育学部紀要 第24集第2部 pp65~75 1980
- 36) 金城光子 舞踊の鑑賞語・評価語 ～琉球・沖縄舞踊の鑑賞語 琉球大学教育学部紀要 第17集第2部 pp201 ~224 1973
- 37) 金城光子編 学校における沖縄の踊り 沖縄の踊り教材研究会 サン印刷 1980 .
- 38) 金城光子 舞踊における美への視点 九州大学出版会 1988
- 39) 金城光子編 沖縄の踊り ～教材化の方法を求めて～ 沖縄県女子体育連盟 コロニー印刷 1988
- 40) 金城光子 琉球舞踊 I II III IV 沖縄協会 第8回沖縄研究奨励賞受賞論文集 1986
- 41) 金城光子 琉球舞踊譜(1) ～譜語と記号～ 琉球大学教育学部紀要 第37集第2部 1990
- 42) 金城光子 琉球舞踊譜(2) ～かぎやで風譜～ 琉球大学教育学部紀要 第37集第2部 1990
- 43) 金城光子 琉球舞踊譜(3) ～古典舞踊かぎやで風 女踊り・老人老女踊り譜～ 琉球大学教育学部紀要 第41集第2部 1992
- 44) 金城光子 琉球舞踊譜(4) ～男踊り・上り口説譜～ 琉球大学教育学部紀要 第41集第2部 1992
- 45) 金城光子 琉球舞踊譜(5) ～女踊り・かせかけ譜～ 琉球大学教育学部紀要 第42集第2部 1993
- 46) 金城光子 琉球舞踊譜(6) ～女踊り・天川譜～ 琉球大学教育学部紀要 第42集第2部 1993
- 47) 金城光子・喜瀬慎仁 琉球芸能の基本的技法と指導の実際(1) ～舞踊と歌・三線～琉球大学教育学部紀要 第43集第2部 1993
- 48) 金城光子：沖縄の伝統芸能における学習過程の研究(1) ～琉球舞踊の学習内容と方法～ 琉球大学教育学部紀要 第43集第2部 1993
- 49) 野村流古典音楽保存会工工四拾遺 三ツ星印刷所 1993
- 50) 野村流古典音楽保存会工工四 舞踊曲工工四 第1巻 三ツ星印刷所 1969
- 51) 金城光子：琉球舞踊譜(7) ～女踊り・伊野波節譜～琉球大学教育学部紀要 第44集第2部 1994
- 52) 金城光子・喜瀬慎仁 琉球芸能の基本的技法と指導の実際(2) ～舞踊小道具と工工四の読み方・歌い方～ 琉球大学教育学部紀要 第44集第2部 1994
- 53) 西平守模・当間一郎監修「古典琉球舞踊の型と組踊五組」月刊沖縄社 1972
- 54) 阿波根朝松「沖縄文化史」増補版 沖縄タイムス社 1970
- 55) 金城光子 琉球舞踊譜(8) ～女踊り・諸屯譜～ 琉球大学教育学部紀要 第45集第2部 1994
- 56) 金城光子 琉球舞踊譜(9) ～男踊り・高平良万歳譜～ 琉球大学教育学部紀要 第45集第2部 1994